



大原美術館後援会会報

丸窓

[第30号] 令和6年10月

《掲載情報》

- ・大原美術館会活動報告
- ・名画カレンダーについて
- ・大原美術館後援会より など

発行：大原美術館後援会事務局

大原美術館活動報告

夏の後援会会員限定イベントを開催しました。

事務局長 森川政典



イベントの様子

8月17日(土)閉館後、久しぶりに後援会会員限定のイベントを開催いたしました。先着申込順で27名の会員のみなさまにご参加をいただきました。大原代表理事の歓迎挨拶、三浦館長と松井えり菜後援会会長の挨拶にはじまり、各グループに分かれての記念撮影、その後、三浦館長自らが展示室をご紹介するギャラリートークとみなさまと楽しく進めることができました。特に特別展「異文化は共鳴するのか？ 大原コレクションでひらく近代への扉」開催期間中のため、より一層の興味や理解が深まる内容だったと感じています。

改めてご参加いただきましたみなさまに心から御礼申し上げます。

また、今回のイベントにつきましては、閉館後の特別な時間を利用していることもあり、特別料金を設定させていただきました。「あれ?」と不思議に思われた方もいらっしゃるかも知れません…。今までのイベントはご招待にて実施が多くありましたが、大原美術館を無料で利用することについて、運営面での見直しが必要との声を多くいただいております。今後は大原美術館を存続させ、ポテンシャルを高めていける、さらなる発展を目指すため、より付加価値を感じていただけるイベントや内容に変更していく予定です。事情ご賢察の上、今後とも何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。



ギャラリートัวร์の様子



松井えり菜会長が描いた三浦館長の肖像画

大原芸術研究所 事業部より

事業部について

事業部部長 藤田 文香



4月の組織変更より早半年…。前号の『丸窓』では研究部についてご紹介しましたので、もう一つの部である事業部のご紹介を申し上げます。

簡潔に申し上げますと「研究以外のすべての業務を行う部署」が事業部ということになります。

事業部には運営管理課、マーケティング課の2つの課がありますが、「財団の価値を創り出す」のが運営管理課で「財団の価値を可視化し、ファンドレイジングする」のがマーケティング課のお仕事です。作品以外の「財団の価値を創り出す」とは、建物や施設を守っていくこと(営繕チーム)や、お客様をお迎えするおもてなしマインドの醸成や一方で作品を最前線で守ること(運営チーム)、働いている

スタッフが前述のような仕事にしっかりまい進できるように整える(総務・経理チーム)といったものです。

また、広報活動を通して「財団の価値を可視化」して発信し(プロモーションチーム)、企業の皆様(法人チーム)、後援会会員の皆様を含め個人の方(個人チーム)からのご寄付や協賛、会費をいただくというのが「ファンドレイジングする」ということになります。

上記の業務は旧財団でも当然行ってきたことではありますが、新財団では各チームのミッションを明確にし、事業部、研究部あわせて31名のスタッフのうち、13名が事業部のいずれかのチームで兼務しながら日々の美術館運営をささえています。



長旅から戻った“ジャンヌ”

研究員 塚本 貴之



貸出先のバルベリーニ美術館



先月終了した特別展『異文化は共鳴するのか？ 大原コレクションでひらく近代への扉』は皆様ご覧いただけましたでしょうか。4章構成による大原コレクションの新たな提示は、まさにこれからの歩む当館の未来の姿を垣間見せるものでした。

しかし、その中で「ジャンヌの姿がない！」と気づかれた方も居られたでしょう。そう、残念ながらアメデオ・モディリアーニ《ジャンヌ・エビュテルヌの肖像》は、昨年11月からドイツのシュトゥットガルト、そしてポツダムへと貸出のため、長い旅に出ていました。そして2か月ほど前の8月中旬、ポツダムのバルベリーニ美術館に「クーリエ」として“ジャンヌ”を迎えに行き、ようやくホームへと戻ってきたのです。

以前も本誌で「クーリエ」についてご紹介したことがあります。海外へ作品を貸出する際、作品と共に旅をし、貸出先の美術館で展示されるまで見届ける（或いは返却してもらう）仕事です。今回は2会場に渡り、約10ヵ月も貸出をしていたので、本当に久しぶりの対面でした。

ドイツ国内にはモディリアーニの作品が非常に少ないようで、回顧展の開催も今回が15年ぶり。残念ながら特別展では番がありませんでしたが、代わりに多くのドイツの方々に、当館のジャンヌと出会って頂く機会となりました。

◀展示から下ろされる《ジャンヌ・エビュテルヌの肖像》

表紙の作品

大原美術館名画カレンダー2025年度の作品



ジャン=バティスト・カミーユ・コロ
《ラ・フェルテ=ミロンの風景》
1855-65年 油彩、画布 23.7×39.3cm

19世紀中頃に生まれるバルビゾン派——パリ郊外の森に集い、自然をあるがままの風景として描いた画家たち——を代表するフランスの画家コロ。

彼が描いた本作では、草原と青空との対比が清々しく、人々は自然の恵みを謳歌しているかのよう。豊かな田園地帯と中世の面影を留めた町ラ・フェルテ=ミロンの魅力を、コロはこの小さなカンヴァスに詰め込んだのです。



1973年から発売しているオリジナルカレンダー。2025年度は、丸窓の表紙の作品でもある、ジャン=バティスト・カミーユ・コロ《ラ・フェルテ=ミロンの風景》です。価格は、1,100円(税込)。郵送も可能ですので、ミュージアムショップにご用命くださいませ。

後援会事務局より

「ご紹介キャンペーン第二弾」のお知らせ

後援会会長・松井えり菜氏デザインの限定入会記念グッズをご存じですか？

以前、丸窓にてご紹介し、反響をいただいた、松井えり菜氏デザインの入会記念グッズこと「オリジナルバッグ」が、皆さまからの熱いご要望にお応えして、再びご紹介キャンペーンを行います。皆さまの大切な方に「大原美術館後援会」をぜひご紹介いただき、会員の皆さまもぜひ記念グッズをゲットしてください。

ご紹介キャンペーン特典 キャンペーン期間：2024年12月1日～2025年3月末

通常、新規ご入会者さまにプレゼントする記念グッズを、ご紹介者さまにもプレゼントいたします。ご入会の際に、ご紹介者さまのお名前もお知らせください。

※30個限定、お1人様、1回限りとさせていただきます。



松井えり菜氏デザインバッグ
B5サイズの手帳や、水筒が入るサイズです。
ちょっとしたお出かけや、お弁当を入れるバッグとしてもご活用いただけます。

